

# 『 禅のころ -曹洞宗- 』

---

ほ てい  
布袋さま

令和2年4月第3週放送

---

布袋さまは、中国唐の時代の末から五代の時代にかけて明州、現在の浙江省寧波に実在した禅僧だと考えられています。名前を「契此（かいし）」と言います。

太鼓腹に満面の笑みを湛え、杖の先に布袋ぬのぶくろをくく括り付け、持ち物は全てこの布袋の中に入れて持ち歩いていました、布袋さまと言われる所以です。町に出ては物乞いして廻り、頂いた食べ物は直ぐに口に入れ、残りはこの布袋にしまい込みました。雪が降っても、布袋さまのところに降り積もることはありません。

そんな布袋さまのことを当時の人達は不思議な禅僧だと思っていたようです。また日照りや水害を言い当てる能力もあったと伝えられています。そんな布袋さまの辞世の句が、「弥勒みろくだと言われれば間違いなく弥勒なのだが、弥勒には無数の分身がいて、時に応じて人前に現れるものの、そのことを誰も知らずにいる。」であると伝えられたこともあって、布袋さまは弥勒菩薩の化身であると考えられるようになりました。

ある時この布袋さまが、大きな橋に立っているのを見かけた人が、「ここで何をしているのですか」と尋ねると、「然しかるべき人を待っておるのだ。」との答え。「ここにいる私ではダメですか。」と言うと、「お前ではない。」と言う。「ではどんな人をお探しですか。」と尋ねると、「わいちもんせんしに一文銭をくれる人だ。」と、答えたといひます。布袋さまは単にお金を恵んでくれる人を待っていたのでしょうか。禅では然るべき人とは修行を積み優れた力量を具えた人の事です。もしかしたら布袋さまは、本当はその様な人物をは待っていたのかもしれませんが。

## 『 禅のこころ - 曹洞宗 - 』

---

皆様もご存知の通り布袋さまは七福神のお一人としても知られています。有名なふくよかな太鼓腹と満面の笑み、何が入っているのかと想像力を掻き立てられる布か袋ぬのぶくろ、そして未来を象徴する弥勒菩薩の化身だとする説、これらの要素から大変な人気者となり。中国では特に禅寺でお参りの方々を暖かく迎えてくれる存在として、また、日本では鎌倉時代以来、絵の題材として数多く取り上げられてきました。

布袋さまの一カ所に留まらない、生活は決して楽なものではなかったはずです。しかしその豊満で茶目っ気のある風貌と円満な人柄、ちょっと不思議な言動、そして何でも頂いたものを頓着なく何でも詰め込んでしまう布か袋ぬのぶくろ。これらは、世知辛い俗世を渡っていかねばならない私たちの生き方に問いを投げかけ、世間に振り回されている私たちの日常をちょっと笑い飛ばしているかのようです。誰にとっても未来は不確かなもの……。

まるで、布袋さまのお姿が一服の清涼剤のように感じられます。

— 終 —